

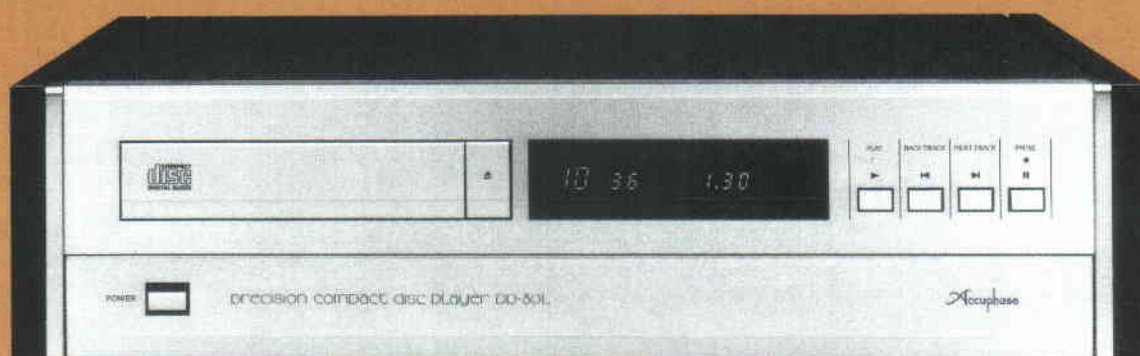
# COMPACT DISC PLAYER

## DP-80L

コンパクト・ディスク・プレーヤー

取扱説明書

COMPACT  
**disc**  
DIGITAL AUDIO



Accuphase

このたびはアキュフェーズ製品をお買上げいただきまして誠にありがとうございます。

最高峰のオーディオ・コンポーネントを目指して完成されたアキュフェーズ製品は、個々のパーツの選択から製造工程、出荷にいたるまで数多くの厳しいチェックを受け、その過程及び結果が一台ごとの製品の履歴書として明細に記録され、社内に保管されております。このように完全な品質管理体制の中から生まれた本機は、必ずやご満足いただけるものと思います。末長くご愛用下さいますようお願い申し上げます。

## お 願 い

お客様カードを付属していますから、これに必要事項をご記入のうえなるべく早く(お買上げ後10日以内)ご返送ください。お客様カードと引きかえに保質保証書をお届け申し上げます。

製品に関するお問い合わせ、または異常が認められるときは弊社、品質保証課または、お求めの専門店へ、直ちにご連絡くださいますようお願い申し上げます。

## 目 次

特長	1
ご注意	2
各部の名称と動作説明	3
接続方法	10
ご使用方法	11
リモート・コントロール	13
保証特性	15
特性グラフ	16
ブロック・ダイアグラム	17

# 特長

## ■出力は広帯域光ファイバー 2 系統と75Ω同軸を装備。付属の本格的な石英ファイバーで理想伝送を実現

デジタル出力は、弊社が提唱しEIAJ(日本電子機械工業会)規格として制定された、デジタルオーディオ・インターフェースに基づいた光ファイバー 2 系統と、75Ω同軸出力を装備しています。光ファイバーの伝送能力は10Mbit/secの広帯域型で、付属の良質な石英ファイバーと相俟って伝送ひずみ、ジッターの少ない理想的なデジタル伝送を可能にします。また、光伝送ではプレーヤーとプロセッサー間が電気的に遮断され不要雑音成分の流入を防ぎ、これに起因する音質劣化がありません。

電源を通してのデジタル雑音の流入や流出は、本格的なライン・フィルターで遮断しております。

## ■全ての動作のタイミングを一つのマスター・クロックでコントロール。ビート音を発生せず音質の劣化が皆無

機器内の動作をコントロールする基準信号を作るのが、水晶発振子によるクロックです。通常、デジタル信号処理用とマイクロプロセッサー用の2種類が使用されますが、二つの発振周波数に少しでも誤差を生ずるとビートを発生して音質阻害の原因になります。本機は、一つのクロックで全てをコントロールしているのでビートを発生せず、これによる音質の劣化がありません。

## ■リニアモーター・レーザーピックアップと8ビット・マイクロプロセッサーにより1秒以下の選曲時間

CDプレーヤーの大きな魅力の一つに、キーによる選曲があります。本機は、レーザーピックアップのトラッキングに最も進んだリニアモーター・メカニズムを採用しました。専用に開発した8ビット・マイクロプロセッサーでコントロールし、約1秒のスピーディーでスムーズな選曲を可能にしました。また、ディスク・テーブルのアクションも速く、しかもソフトなフィーリングを醸し出します。

## ■メカニズム本体をアルミ・ダイカストフレームにマウント。更にフローティングにより振動・共振対策を施したメカニズム

ディスクは200~500回転/分の高速回転をしています。このため振動を押さえ共振を防止する対策を講じないと、内部のパーツをゆさぶり音を悪化させます。本機は、メカニズム本体をアルミ・ダイカストフレームにマウントして共振を防ぎ、更にシャーシからフローティングして振動の伝達を遮断しました。これによって、ディスク・テーブルともフローティングされ、メカニズム本体に対する外部からの振動を最小限に食い止めることができます。

## ■重量級シャーシによる無共振設計

本機の重量は15Kgで、CDプレーヤーとしては超重量級に属します。回転部分を厚手の金属フレームで支持し、全体を振動に対して徹底的に強化しました。また、全体が堅牢なフレーム構造のため共振に強く、スピーカーからの音圧や置く場所による音質変化もほとんど無く、安定した動作を約束します。

## ■アナログ・プレーヤー感覚の操作機能

外観は従来のCDプレーヤーにないアキュフェーズ独自のシンプルなデザインです。露出しているキーはPLAY、TRACK SEARCH(BACK/NEXT)それにPAUSEの4個のみで、アナログ・プレーヤー感覚の操作が可能です。その他のファンクション・キーは、下部のサブパネル内部に収納しました。また、全機能を備えたリモート・コマンダーRC-2を付属しています。

## ■一連のアキュフェーズ・ラインにマッチしたシンプルで優美な外観

ゴールド調スクラッチ・ヘアライン仕上げのパネルと、天然パーシモン・サイドボードの優美な外観は、他のアキュフェーズ・ラインとよくマッチし、リスニングルームの雰囲気を引き立てます。

# ご注意

## ■設置場所について

次のような場所へは設置しないように注意しましょう。

- ▼直射日光が当たる場所や暖房器具のそばなど、極端に温度の高いところ（周囲温度40°C以上）、または温度の低いところ（周囲温度5°C以下）は、正常な動作をしなくなる場合があります。
- ▼湿度が高い、ホコリが多い、水がかかる可能性がある場所等は、性能を低下させたり故障の原因になります。
- ▼しっかりした、平らなラックや台に設置し、ぐらつく台や不安定な場所は避けましょう。傾いていたり、ガタツクところは禁物です。

## ■光ファイバーについて

本機のデジタル出力をアキュフェーズ・デジタル・プロセッサーDC-81LやDC-81で受ける場合の標準方式は、光ファイバー伝送方式です。光ファイバーは中のコアに光信号が通ります。このコアは直径0.7mmの低損失の石英ガラスを使用していますので、プラグの先端のキズやレセプタクルの中の異物は天敵です。

したがって、半径5cm以下に曲げると破損しますので、セットの後ろで大きく丸く撚り合わせるときなど、決して強く曲げたり、またご自分で切断、再加工をなさらないように十分に注意してください。

プラグをレセプタクルに差し込むときは、アキュフェーズマークが貼り付けてある面を上をしっかり差し込んでください。プラグをしっかり持って抜き差しをし、光ファイバーを引っ張らないように注意してください。

## ■音量レベルについて

デジタル記録方式によるコンパクト・ディスクの再生は、非常にノイズレベルが低く、音楽信号に含まれるピーク成分も正確に再現します。従ってLPレコードやカセットテープのように、ノイズを聴きながら音量レベルを合わせると、思わぬ大音量が出てスピーカーを破損することがあります。また、ディスクの解説書に音量に対する注意書きがあるものは、一通りすべての内容を聴くまではボリュームにご注意ください。

## ■光学系ピックアップの結露について

冬、暖房のきいた部屋の窓ガラス一面に水滴がついてくもってしまう現象、これを結露といいます。コンパクト・ディスク・プレーヤーでも次のようなときに、ピックアップ・レンズに結露することがあります。

- ▼ストーブなど、暖房器具をつけた直後
- ▼湯気や湿気が立ち込めている部屋に置いてあるとき
- ▼冷えた戸外や冷房のきいた部屋から急に暖かい部屋に持ち込んだとき

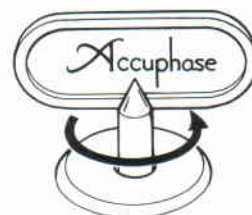
## ●●結露してしまったら●●

結露すると、光学ピックアップがディスクのデジタル信号を読み取ることができず、プレーヤーが正しく動作しなかったり、まったく作動しなくなります。

このような場合、周囲の状況にもよりますが、ディスクを取り出して電源を入れておけば、**長くて約1時間で露が取り除かれ、正常な作動をするようになります。**

## ●●ご使用前の準備●●

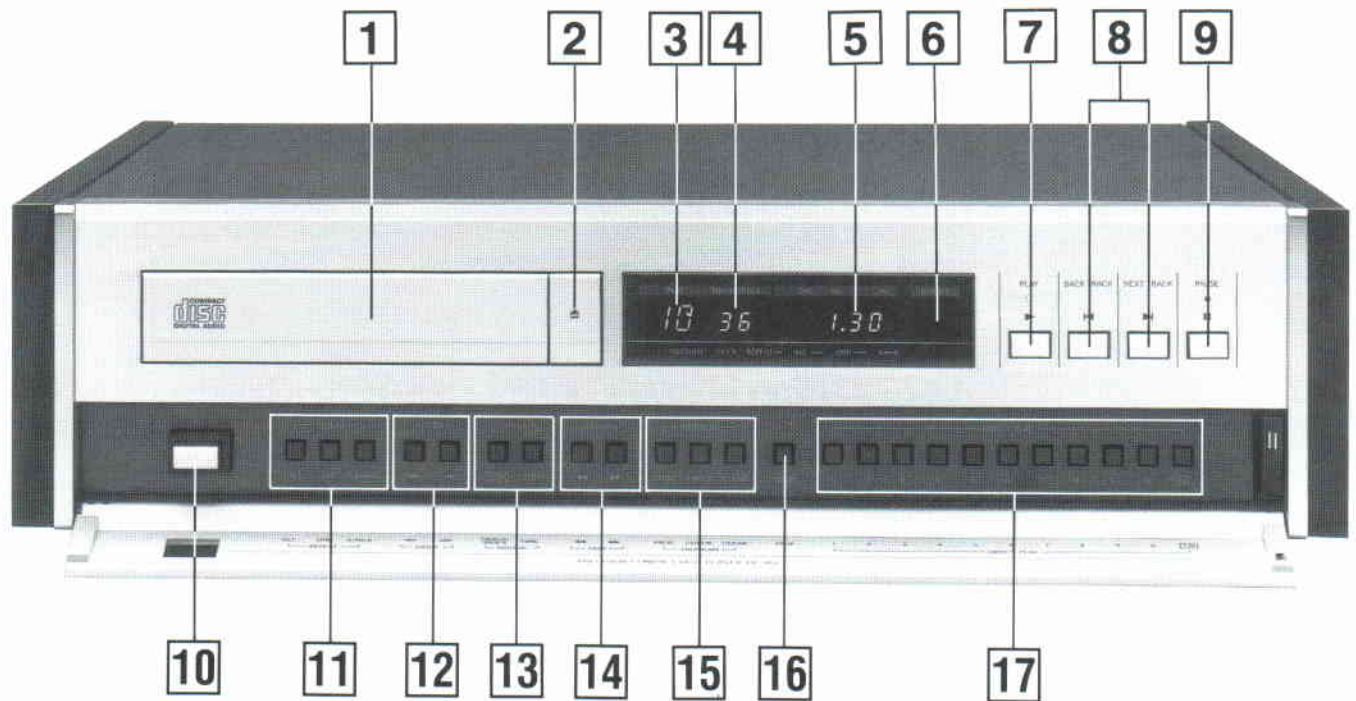
レーザー・ピックアップを含む光学部品は輸送時の衝撃から保護するためにロックされています。ご使用前に本機底面の注意書きに従って、保護ネジを矢印の方向に回してからご使用ください。



ネジは、付属のドライバーを使って180度左回りに回してください。無理に回しすぎると故障の原因になります。また、再輸送のときは、ネジを逆方向に回してください。

ネジを回してもしっかりした手応えがありませんから注意深くお回しください。付属のドライバーは大切に保管しておきましょう。一般のドライバーで保護ネジを回すと故障の原因になります。

# 各部の名称と動作説明



## 1 ディスク・テーブル

ディスク・テーブル開閉スイッチ②を押すと手前に出きます。ディスクはレーベル面を上にしてテーブルに載せてください。本機で8cmディスクを演奏するときは、特別なアダプターを必要としません。

ディスク・テーブル前面を軽く押すか、開閉スイッチをもう一度押すか、演奏状態、あるいは **||** PAUSEキーを押すと閉じます。

## 2 ▲ ディスク・テーブル開閉スイッチ

一度押すと、ディスク・テーブルが手前に出きます。もう一度押すとテーブルは中へ入り、ディスクが入っている場合は直ちにディスクのリードイン・エリア(Lead-in Area)のTOC(Table of Contents)を読み始め、全曲数を④TRACK/INDEXに、全演奏時間を⑤TIMEに表示します。全演奏時間は⑩STOPキーを押すと消えます。続けて2度押すと停止(演奏待機)状態になります。

## 3 プレイ PLAY (演奏)トラック・インジケーター

演奏中のトラック(曲の番号)を表示します。**||** PAUSE(一時停止)中はその時点のトラック番号を表示します。なお、⑬TIMEスイッチを切り替えて全残り時間を表示させているときだけ、このトラック表示は消えます。

## 4 トラック インデックス TRACK/INDEXインジケーター

通常はディスクに入っている全曲数を表示しますが、⑫ ← INDEXサーチ・キーまたは⑬DISPLAYキーの左側、TRACK/INDEXキーを押すと、インデックス番号(曲中番号)を表示します。再びTRACK/INDEXキーを押すと、演奏トラック表示に戻ります。インデックス番号を表示しているときは、表示の下にあるLED(発光ダイオード)が点灯します。

5

### タイム TIMEインジケータ

PLAY中、PAUSEにかかわらず、通常は曲中の経過時間を表示していますが、⑬TIME表示切替キーを一度押すと曲中残り時間、もう一度押すと全残り時間を表示します。残り時間を表示するときは、数字の前に **—** 記号が出ます。

また、演奏が始まる前、つまり曲の導入部においては経過時間がカウントダウンされますので、経過時間を表示させているときでも **—** 記号が出ることがあります。

6

### リモート REMOTEセンサー

本機に付属しているリモート・コマンダーRC-2の赤外線信号を受信する窓です。リモート・コマンダーのキーを押している間は、窓の下のLEDが点灯します。

7

### ▶ プレイ PLAY (演奏) キー

ディスク・テーブルにディスクを入れて演奏を開始するときに押します。演奏中はキーの上のLEDが点灯します。

ディスクがテーブル上であって演奏待ちの状態のときは、

▶ PLAYキーを押すと自動的にテーブルが閉じて、最初のトラックから演奏を開始します。また、⑧トラックサーチ・キーでトラック番号が指定されていたり、更にそのトラックのインデックス番号までも指定されているときは、指定された位置から演奏を開始します。

最終トラックの演奏が終了すると、本機は演奏待機の状態になります。この場合、⑤TIMEインジケータは消えます。

8

### ◀ バックトラック / ▶ ネクスト BACK TRACK / NEXT トラック TRACK (トラックサーチ) キー

#### ◀ BACK TRACKサーチ・キー

演奏中や一時停止の状態、1回押すとその曲の頭に戻ります。続けて押すと順次、前の曲へトラック番号をカウントダウンします。なお、サーチ中は⑤TIMEインジケータは消えます。

#### ▶ NEXT TRACKサーチ・キー

前とは逆に、1回押すと次の曲の頭へ飛びます。続けて押すと順次、次の曲へトラック番号をカウントアップします。

これらのキーは、ディスクが入っている場合は④に表示されている最大トラックを越えることはありません。

また、ディスク・テーブルが出ている場合にトラックサーチ・キーで番号を指定して ▶ PLAYキーを押せば、指定したトラックから演奏を開始します。ただし、指定した数字が最終トラックを越えているときは、そのディスクの最後の曲を演奏します。それぞれのキーでサーチ中は、ミュージング回路の作動で出力は停止します。

9

### || ボーズ PAUSE (一時停止) キー

演奏を一時停止するときに押します。押すとキーの上にあるLEDが点灯し、▶ PLAYキーのLEDが点滅します。再開するときは、⑦PLAYキーを押すと、|| PAUSEキーのLEDが消灯し、停止した位置から再び演奏が始まります。

ディスク・テーブルにディスクが入ったまま、出ている場合にこのキーを押すと、そのディスクの第1曲目の演奏開始待ちの状態になります。

また、|| PAUSEキーで演奏停止中は、⑧トラックサーチ・キーでトラック番号を変えたり、⑭のキーで早戻し、早送りをするなど、それなりの動作をしますが、時間の経過がありませんから、ディスク上の位置を変更したら、そのポジションで時間表示は停止しています。

10

### 電源スイッチ

押し込んだ状態で電源が入り、再び押すと切れます。ディスク・テーブルが出ている状態で電源スイッチをONにすると、テーブルは収納され、そのときディスクが入っていれば、ディスクの内容を自動的に読み込んで、演奏待機の状態になります。

電源スイッチをOFFにすると、それまでに設定していた状態が全て解除されます。

## 11 リピート REPEAT(繰り返し演奏)キー

### オール ALL (全曲) リピート・キー

ディスクに記録されている全曲を繰り返し演奏させるためのキーで、1回押すと上のインジケータにLEDが点灯し作動状態になります。再び押すか、右にあるリピートONEキー、リピートA ↔ Bキーそれにディスク・テーブルを開けると解除されます。Ⓜ STOPキーを押しても解除されません。

全曲繰り返し演奏中は、トラックサーチ、インデックス・サーチ、早戻し、早送りなど全ての動作が通常と変わることなくできます。また、いかなる状態にあるときでも、この指令を出すことができます。

### ワン ONE (1曲) リピート・キー

ディスク内の特定の1曲だけを繰り返し演奏させるキーで、1回押すとインジケータにLEDが点灯し作動します。再び押すか、左右のリピート・キーやディスク・テーブルを開けると解除されます。

このキーも、トラックサーチ、インデックス・サーチ、早戻し、早送りなど通常通りの操作ができますが、演奏しているトラックが変わったときは、そのトラックで1曲リピートを行いません。このキーも前に同じく、いかなる状態のときでも指令を出すことができます。STOPキーでは解除しません。

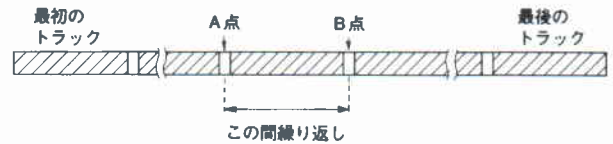
### A ↔ B (指定区間) リピート・キー

ディスク内の指定した区間を繰り返し演奏させるためのキーで、演奏中に起点となるところ「A点」で1回押すとLEDがフラッシングしてA点が設定されます。次に、折り返したいところ「B点」に到達したら、再度このキーを押します。LEDが常時点灯に変わって、演奏はA点に戻り、その後はA～B間を繰り返して演奏します。再びキーを押すか、他のリピート・キー、ディスク・テーブル開閉スイッチを押すと解除されますが、STOPキーでは解除できません。

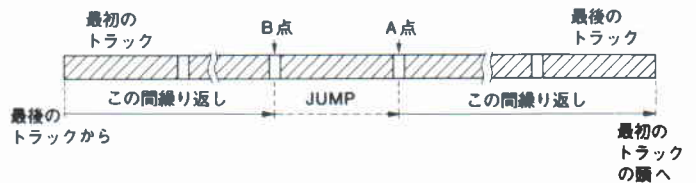
早送り、早戻し、トラックサーチのキーを使うと、手早くA点、B点を定めることができます。また、PAUSE (一時停止) 中にも設定可能です。

A点、B点が決められ、その間を繰り返し演奏しているときでもトラックサーチ、インデックス・サーチ、早戻し、早送りなどの動作は通常通りです。従って、これらのキーを操作すると、指定区間を飛び出してしまうことがあります。このA ↔ Bリピート・キーを上手に使うと、特定の曲、区

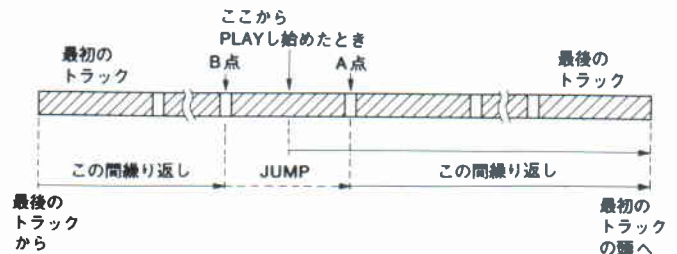
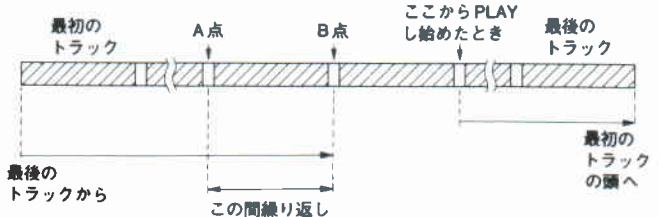
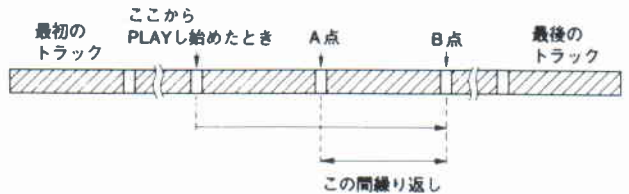
A点がB点より時間的に前のとき



B点がA点より時間的に前のとき



指定区間外からPLAYしたときのREPEAT動作



間をジャンプさせることが可能になります。今までの説明では、B点を時間的にA点の後に設定しましたが、A点より時間的に手前にB点を設定してみます。まず、A点を設定したらトラックサーチや早戻しキーを操作してB点を手前に設定してください。このように設定しますと、実際の演奏はA点から最後のトラックの演奏が終わると、今度は最初のトラック

クの頭から演奏が始まり、B点に到達すると直ちにA点へジャンプしてしまいます。つまり、B～A間をカットした演奏が可能です。事前に時間表示を調べておいて、PAUSE（一時停止）中に行なえば簡単にセットすることができます。

## 12 インデックス INDEX(インデックス・サーチ) キー

インデックス番号とは1曲の中（1トラックの中）を細分化する場合に付けられている番号です。楽章の変わり目や曲中の節目に付けられていると、曲の特定な場所からの演奏が容易になります。ディスクや曲種によって細分化されていないものも多くありますので、ディスクの解説書をご参照ください。

### ← BACK INDEXサーチ・キー

▶ PLAYおよび || PAUSE状態のときにこのキーを1回押すと、演奏中のインデックスの頭に戻り、続けて押すと順次、前のインデックスへカウントダウンします。そのトラック内のインデックス1番の先頭より前へ戻ることはありません。サーチ中はTIMEインジケータが消えます。

### → NEXT INDEXサーチ・キー

このキーは逆に、1回押すと1インデックス次の先頭に飛びます。続けて押すと順次、インデックスをカウントアップします。インデックスをサーチすると、④TRACK/INDEXインジケータはインデックス番号表示に変わります。元の曲数表示（最終トラック番号表示）に戻すときは、⑬DISPLAYボタンの左側のプッシュボタン・スイッチ、TRACK/INDEXを押してください。インデックス表示になっている間は、番号の下にあるLEDが点灯します。

インデックス・サーチは、そのトラック内を飛び出すことはありません。また、トラックサーチとは違い、そのトラック内のインデックス番号をあらかじめ本機が知っているのではなく、指令が出されてから検索しますので、存在するインデックス番号より大きい番号を指令することができますが、検索後に、存在する最後のインデックスの頭に飛びます。それぞれのキーでサーチ中は、ミュート回路の作動で出力は停止します。

## 13 ディスプレイ DISPLAY(表示)切替キー

左側のTRACK/INDEXキーは、④TRACK/INDEXインジケータの表示を切り替えます。通常、ディスクが入っていれば、そのディスクの最終トラック番号をディスプレイしていますが、このキーを押すと、その時点のインデックス番号を表示します。再度このキーを押すと元に戻ります。インデックス表示中はLEDが点灯しています。

右側のTIME切替キーは、⑤TIMEインジケータの表示モードを切り替えるキーです。通常は曲中の経過時間を表示していますが、キーを1回押すと曲中残り時間、もう1回押すと、ディスクの全残り時間を表示します。再度押すと、元の曲中残り時間に戻ります。このように、キーを押す度に3種類の時間表示が循環します。残り時間の数字の前には — 記号が出ます。電源を切るか、ディスク・テーブルを開けると解除されます。

## 14 ファースト リバース FAST REVERSE(早戻し) /

### ▶▶ ファースト フォワード FAST FORWARD(早送り)キー

▶ PLAY（演奏）中および || PAUSE（一時停止）中に作動させることができます。両キーとも押し続けている間作動します。|| PAUSE中は4倍の速さで早戻し、早送りができます。

◀◀ FAST REVERSEキーを押し続けて第1トラックの先頭に到達し、さらに続けて押すと、PLAY状態のときは、第1トラックから演奏を開始します。▶▶ FAST FORWARDを押し続けて演奏が終了すると、自動的に || PAUSE状態になります。演奏トラックを再指定してください。

## 15 PROGRAM(プログラム)演奏キー

ディスクの中から聴きたい曲だけをピックアップして、好きな順序で演奏を楽しむために大変便利な機能です。また、30曲までのプログラムが可能ですから、限度以内のディスクなら曲の演奏順序を変えて楽しんだり、同一の曲を指定回数だけ繰り返し演奏させる、ということも可能になります。



### プログラム演奏のセット方法

プログラムをするには……ディスク・テーブル内にディスクが入って演奏待機の状態（STOPキーが押された状態）、つまりプレーヤーがディスクの内容を把握してからプログラムのセットを始めることができます。演奏中や一時停止中にプログラム演奏のセットはできません。

プログラム・キーを押すとPLAYトラック・インジケータの下のPROGRAMモードを示すLEDが点灯してプログラム開始OKとなります。プログラム・モードを解除するには、再びPROG.キーを押してください。⑯ STOPキーでは解除できません。

プログラム開始OKサインが点灯したら……⑰ DIRECT PLAYキーで希望する演奏トラックの順序に従って曲番を入力して行きます。キーを押して曲番を入力すると、③ PLAYトラック・インジケータに入力したトラック番号が表示されます。④ TRACK/INDEXインジケータにはプログラムした順序（プログラム番号）が表示され、TIMEインジケータにはプログラムした曲の合計演奏時間が表示されます。この時間表示は99分59秒を越えると ——.—— となります。

プログラムしたトラック番号を確認するには……トラックサーチ・キー ◀ BACK TRACKと ▶ NEXT TRACKを使用します。プログラムした順序と範囲内において順次、移動させることができます。

プログラムのセットが完了したら…… ▶ PLAYキーを押して演奏開始です。

プログラム演奏中にプログラムの演奏順序や曲数がチェックできる……CHECKキーを1回押す度に、プログラムした第1曲目から順番に、1曲ずつ、内容がディスプレイされます。そのままにしておけば、2秒後に解除されて、キーが押される前の状態に復帰します。なお、チェック中は時間表示はしません。また、INDEX表示になっているときにチェックするとインデックス表示は解除されます。

入力したプログラムを削除したいときは……トラックサーチ・キーを使って削除したい曲番を表示させてCLEARキーを押します。▶ PLAY（演奏）中や || PAUSE（一時停止）中にはできません。

途中にプログラムを追加したいときは……トラックサーチ・キーを使って追加したい場所をディスプレイさせて、通常のプログラム作業と同じく、DIRECT PLAYキーで入力します。表示されているトラック番号の次のところに追加入力されます。つまり、表示させたトラック番号の次のトラック番号へ新しい曲が割り込むこととなります。このことは、入力するときにDIRECT PLAYキーの +10 キーや +20 キーを押すとプログラム番号がカウントアップする様がよく分かりません。そのまま放置すると5秒で前の状態に復帰します。

### プログラム演奏中のご注意

- ▼プログラム演奏中にPROG.キーを押すと、演奏は続行されますがプログラム・モードは解除されて通常の演奏になります。
- ▼プログラム演奏中にSTOPキーを押すと、演奏は停止しますがプログラム・モードは解除されません。
- ▼プログラム演奏中に ◀ BACK TRACK、▶ NEXT TRACKサーチ・キーを用いれば、プログラム順序に従って、戻り、送り、され、希望のトラックの頭から演奏開始ができます。
- ▼プログラム演奏中にDIRECT PLAYキーは作動しません。
- ▼REPEAT（繰り返し）演奏は、プログラム演奏中やプログラム中であってもセット可能ですが、A ↔ B REPEATはできません。
- ▼プログラム演奏中においてもINDEX（インデックス）キーを使用して演奏ができます。
- ▼プログラム演奏中は、全残り時間表示は ——.—— になって、表示しません。曲中の残り時間は表示させることができます。
- ▼セットされたプログラムは、ディスク・テーブルを開けない限り消えません。

### 16 ストップ STOP（停止）キー

演奏中や一時停止中にこのキーを押すと演奏待機の状態、つまりプレーヤーがディスクの曲数等の内容を把握しているだけの状態になります。

## 17 ダイレクト プレイ DIRECT PLAY(ダイレクト選曲)キー

このキーを使うと、⑦の ▶ PLAYキーを押すことなくトラック(曲)の番号を直接指定して、演奏を開始させることができます。II PAUSEのとき、STOPキーが押されたり、演奏中であってもこのキーが優先します。

① ~ ⑨までのキーを押すと、その番号から演奏を開始します。+10のキーは10位の桁で、1回押す度に10ずつカウントアップします。つまり23番トラックを選択するには、この+10キーを2回押してから③を押します。リモート・コマンダーRC-2には+20のキーがありますが、これは同じように20ずつカウントアップするキーです。コマンダーから23番トラックを指定する場合は、+20キーを1回押して③を押せば23番トラックから演奏開始です。

また、①キーは1位の桁を表わしますので、30番トラックを選択するときは、+10キーを3回、続いて①キーを押します。

+10や+20キーを押すと、10位の桁が押した回数に比例してカウントアップして行き、1位の桁は—表示されます。1位の桁は5秒以内に指定しないと元に戻ってしまいます。なお、演奏中に+10や+20キーを押してから次のキーを押すまでは、そのまま演奏が続きます。

ディスク・テーブルにディスクを入れて演奏を始める前、つまり、本機がまだディスクの内容を知らないときは、このキーでトラック番号99まで、如何なる番号も指定できますが、ディスクのトラック番号以上の数字が入力されたときは、そのディスクの最終トラックの演奏を開始します。また、既に本機がディスクの内容を把握しているときに存在しないトラックを指定しようとしても受け付けません。

## 18 コアキシャル デジタル出力COAXIAL(同軸)ケーブル・ジャック

通常のピンプラグ付きの同軸ケーブルでコンパクト・ディスクから読み取った音声情報や制御情報をデジタル信号で取り出し、この信号をデジタル・プロセッサー(D/Aコンバーターともいう)へ送り出すための出力端子です。CDプレーヤーからプロセッサーへ送るデジタル信号は、左右チャンネルの音声や制御に必要な情報が一つの信号系で伝送する方式を採用していますから、プロセッサーへ伝送するときのケーブルは1本です。

このジャックから信号を取り出す場合は、デジタル信号の周波数が非常に高いので、質の良いビデオ用のケーブル等をご使用ください。



## 19 デジタル出力<sup>オプティカル</sup>OPTICAL(光ファイバー)コネクタ・レセプタクル

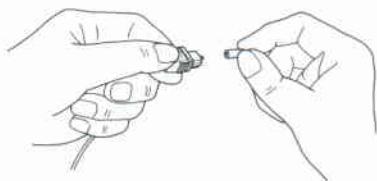
CDプレーヤーとデジタル・プロセッサの間を音質的にも明らかに優位性が認められる光ファイバーで接続する、世界で初めてアキュフェーズが採用した、方式は今やデジタル・オーディオ・インターフェースとして日本電子機械工業会規格に制定されました。本機とアキュフェーズ・デジタル・プロセッサDC-81Lを組み合わせてご使用のときは、光ファイバー接続を標準としてください。

付属の光ファイバーはコアに石英を使用した本格的なものでEIAJ基準RCZ-6901デジタル・オーディオ機器用光コネクタ規格に適合しているものです。接続するときは、プラグの先端についているキャップを外し、レセプタクル側の保護プラグを抜いてから、光ファイバー・プラグをレセプタクルに差し込んでください。

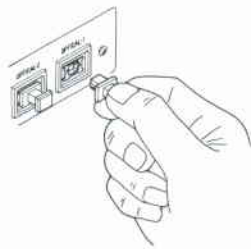
OPTICAL-1、OPTICAL-2共に常時出力があります。どちらをご使用になっても同じです。プロセッサを2台お持ちのときは、2台へ同時に接続することができます。

### ご注意

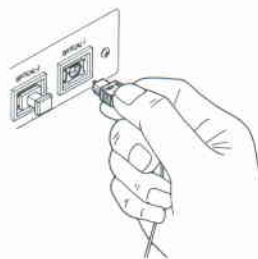
光ファイバーはコア(芯材)に光信号が通ります。このコアは直径0.7mmの低損失の石英ガラスを使用していますのでプラグの先端のキズ、レセプタクルの中の異物は大敵です。半径5cm以下に曲げると破損しますので、セットの後ろで丸く撚り合わせるときなど、決して強く曲げたり、またご自分で切断、再加工をなさらないようにしてください。



プラグ先端のキャップを外す



保護プラグを抜く



プラグの文字面を上にして  
しっかり差し込む

プラグをレセプタクルに差し込むときは、方向性があります。プラグにアキュフェーズマークが貼り付けてある面を上にしてしっかり差し込んでください。抜き差しは、プラグをしっかり持って行ない、ファイバーを引っ張らないように注意しましょう。

## 20 アンスイッチド UNSWITCHED(電源スイッチに連動しない)ACコンセント

電源コードをACコンセントに接続すると、本機の電源スイッチのON/OFFに関係なく、他の機器へ電源を供給することができます。消費電力が100Wを越えないように注意してください。

## 21 AC電源コード

### ■AC電源の極性について

室内のコンセントは大地に対して極性を持っています。機器とこの極性を合わせることで、音質的に良い結果が得られる場合があります。本機もこの極性に対応し、電源の極性を合わせるよう配慮し、電源プラグの接地側に「W」マークを刻印しています。

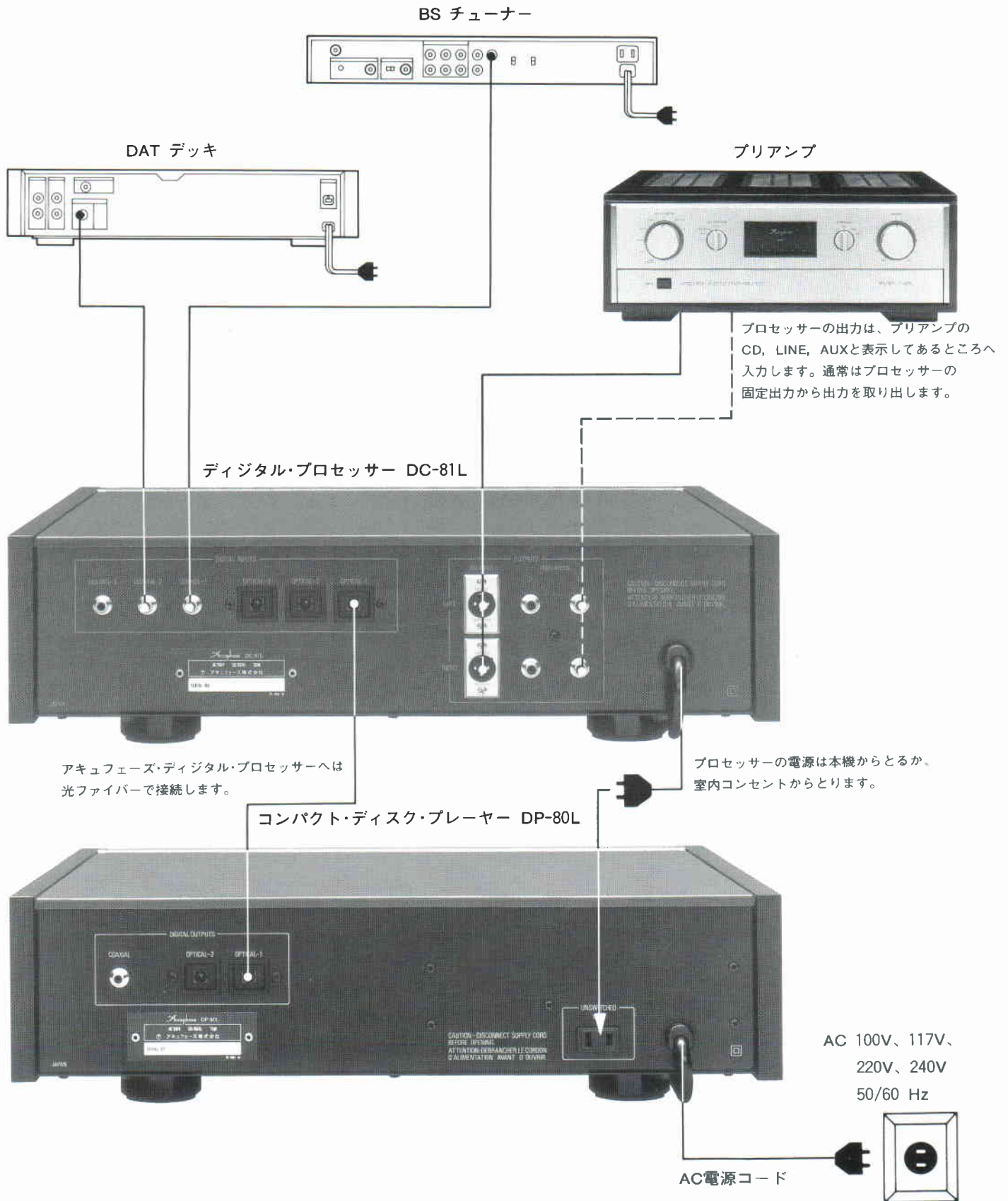
しかし、本機の電源ラインには高周波雑音を遮断するため、ラインフィルターが挿入されています。このため、極性チェッカーで確認なされると、極性が生じないか、また誤表示する場合があります。このような場合でも、本機の「W」マークは接地側としてお使いいただいても問題ありません。

本機のUNSWITCHEDコンセントは向かって左側が接地側になっています。

### ■AC電源電圧の変更とヒューズについて

DP-80Lは使用できる電源電圧を100V、117V、220V及び240Vの4段階に切り替えられます。本機の底板側、電源トランスの下にあるジャンクション・ターミナルで接続変更をする必要があります。また、電源1次側のヒューズもジャンクション・ターミナルの近くについていますが、電源電圧の変更やヒューズが切れて電源が入らなくなったときは、弊社の品質保証課、またはお求めの専門店へご連絡くださいますようお願いいたします。

# 接続図



# ご使用方法

■本機はデジタル信号の出力回路しか装備しておりません。従って、アンプへ入力する前に、デジタル信号をアナログ・オーディオ信号に変換する必要があります。

アキュフェーズ・デジタル・プロセッサDC-81Lは、デジタル信号を忠実にアナログ・オーディオ信号に変換する高性能D/Aコンバーターで、本機とはベスト・マッチングのコンポーネントとして設計されております。

コンバーターは、他社製品のもの、或はアキュフェーズのDC-81など、全ての製品がデジタル信号の伝送フォーマットを統一規格で設計していますから、本機と組み合わせることができます。

■CDプレーヤー（本機の場合はデジタル・プロセッサの出力）は、プリアンプのCD、LINEまたはAUX入力端子へ入力し、決してDISCやPHONO端子と表示されているところへ入力しないようにしてください。

■CDプレーヤーの出力電圧は、一般にパワーアンプへ直接入力しても十分にドライブできますが、他のプログラム・ソースとの切り替えや音質的な観点から、性能の良いプリアンプを通した方が遙に優位性が認められます。

## 【基本操作】

各ファンクション・キーの作動状態の詳細説明は、3ページ～8ページ、各部の名称と動作説明をご参照ください。

本機に付属しているリモート・コマンダーRC-2は電源スイッチのON/OFFはできませんが、その他のファンクションは全てDP-80L本体と同じです。

- ① しっかりした、平らなラックや台に設置し、デジタル・プロセッサにアキュフェーズDC-81Lをご使用になるときは、本機の光ファイバー・プラグ・レセプタクル（両方共に同じ働き）へ光ファイバープラグを差し込み、電源をとり、プロセッサの出力ケーブルを左右チャンネル共に正しくアンプへ入力します。
- ② 本機を含む、ステレオ・システムの各機器の電源スイッチを入れます。アンプのボリュームは下げておいてください。
- ③ ディスク・テーブル開閉スイッチを押してテーブルを出します。ディスクはレーベル面を上にしてテーブルに載せます。記録面は汚したり、指紋をつけないように注意しましょう。
- ④ ▶ PLAYキーを押し、アンプのボリュームを上げます。テーブルが閉じて、ディスクの第1曲目から演奏が始まります。PLAY（演奏）トラック・インジケーターには“1”が表示され、TRACK/INDEXインジケーターには、ディ

スクの合計曲数、その右のインジケーターは経過時間をカウントしています。

- 最後の曲の演奏が終了すると、本機はスタンバイ状態、つまり指令待ちの状態になります。

## ●演奏を直ちに開始しないとき

- ◎ ▶ PLAYキーの代わりに || PAUSEキーを押すと、テーブルは閉じ、第1曲目の演奏開始待ちの状態になります。
- ◎ ディスク・テーブル前面を軽く押すか、開閉スイッチを押すと、テーブルが閉じて合計曲数と総演奏時間をディスプレイして、次の指令があるまでスタンバイ状態になります。

## ●途中のトラック（曲）からの演奏

- ◎ DIRECT PLAYキーを使うと、例えポーズ（一時停止）状態やディスク・テーブルが出ているときであっても、任意の曲から直ちに演奏を開始することができます。このときに指令したトラックの番号が、ディスクに入っている番号より大き過ぎた場合は、最終トラックの演奏が始まります。また、既に本機がディスクの内容を知っているときに存在しないトラックを指定しても受け付けません。
- ◎ テーブルが出ているか、スタンバイ状態で、トラックサーチ・キーを使って、任意の曲を選択し、▶ PLAYキーを押します。
- ◎ 普通に演奏を開始するように、▶ PLAYキーを押して、演奏が始まる前にトラックサーチする。トラックサーチ・キーを使うと、ディスク内の任意の各曲の頭から自由に演奏を開始することができます。
- 以上の説明、つまり「演奏待機」と「途中のトラックからの演奏」の操作を組み合わせることにより、任意の曲でスタンバイすることもできます。

## ●途中で演奏を中止するには

- ◎ 一時停止は || PAUSEキーを押します。一時停止を解除するときは ▶ PLAYキーを押してください。停止したところから演奏が始まります。
- ◎ ディスクを取り出さないときは、STOPキーを押してもかまいません。STOPキーを押した場合は、続きの演奏はできません。
- ◎ ディスクを取り出すときは演奏中でも、ディスク・テーブル開閉スイッチを使います。各種のファンクションも全てクリアーされます。

### [応用操作]

#### ●曲の途中から演奏を開始する

◎インデックス・サーチ・キーを使用すると、曲の途中の特定のインデックスから演奏を始めることができます。6ページ、各部の動作説明に詳しく説明してあります。

#### ご注意

インデックス番号とは、1曲（1トラック）の中を細分化する場合に付けられている番号です。楽章の変わり目や曲中の節目に付けられていると、曲の特定場所からの演奏が容易になります。ディスクや曲種によって細分化されていないものも多くありますので、ディスクの解説書をご参照ください。

◎トラックサーチ・キーやDIRECT PLAYキーでトラックを選択し、その後、早送り、早戻しキーで任意の場所から演奏を始めることができます。このキーでサーチ中はスピーカーから音が出ます（音量レベルは下がる）。また、

|| PAUSEキーを押しておいてトラックサーチと早送り、早戻しキーで目的のトラックと分・秒をピタリと合わせて演奏を開始することができます。

#### ●リピート（繰り返し）演奏

REPEATキーを使い分けると、ディスク全曲、1曲、指定した特定部分の繰り返し演奏ができます。5ページ～6ページに詳しい解説があります。

◎ディスク全曲を繰り返し演奏するときは、演奏開始前、後にかかわらずREPEAT“ALL”キーを押してください。最後のトラックの演奏が終わると最初のトラックへ戻り、演奏が再開されます。指令が解除されるまで繰り返します。

◎1曲だけ繰り返すときは、REPEAT“ONE”キーを押します。押したときのトラックを繰り返します。

◎特定部分を繰り返すには、REPEAT“A ↔ B”キーを使います。演奏中に起点となるところ「A点」で1回押すと、LEDが点滅してA点が設定され、次に折り返したいところ「B点」に到達したら再度このキーを押します。LEDが常時点灯に変わり、演奏がA点に戻り、その後はA～B間を繰り返します。早送りキーを使うと手早くセットすることができます。再びこのキーを押すか、他のリピート・キー、ディスク・テーブルを出す、STOPスイッチを押すなどで、解除されます。|| PAUSEキーが押されて、一時停止中にも設定可能です。事前に時間表示を調べておくと落ち着いて実行できます。

◎特定部分の繰り返し演奏を発展させて、特定部分だけをジャンプさせることができます。前記の説明では、B点はA点より時間的に後ろに設定しましたが、起点となるA点でキーを押し、早戻しキーやトラック・サーチ・キーなどで時間的に前へ戻して、B点を設定します。このようにセットすると、A～B間をジャンプしてその他のディスク内を繰り返し演奏します。具体的には、B点でキーを押すと直ちにA点へ戻り、最終トラックの演奏が終わると自動的に第1曲目から演奏を始めます。しかしB点へ着くとA点までジャンプします。つまり、裏リピートということになります。

#### ●プログラム演奏

◎PROGRAMキーを使うと、聴きたい曲だけを、好きな順序で演奏を楽しむことができます。6ページ～7ページに詳しい解説があります。

◎プログラム演奏のセット方法は……DIRECT PLAYキーで希望する演奏トラックの順序に従って曲番を入力します。

◎プログラムしたトラック番号を確認するには……トラックサーチ・キーを使用します。プログラムした順番と範囲内において順次、移動させることができます。

◎プログラム演奏中にプログラムの演奏順序や曲数をチェックしたいとき……CHECKキーを一回押す度に、プログラムした第1曲目から順番に、1曲ずつ、内容がディスプレイされます。2秒後に解除され、キーが押される前の状態に復帰します。

◎入力したプログラムを削除したいときは……トラックサーチ・キーを使って削除したい曲番を表示させて、CLEARキーを押します。

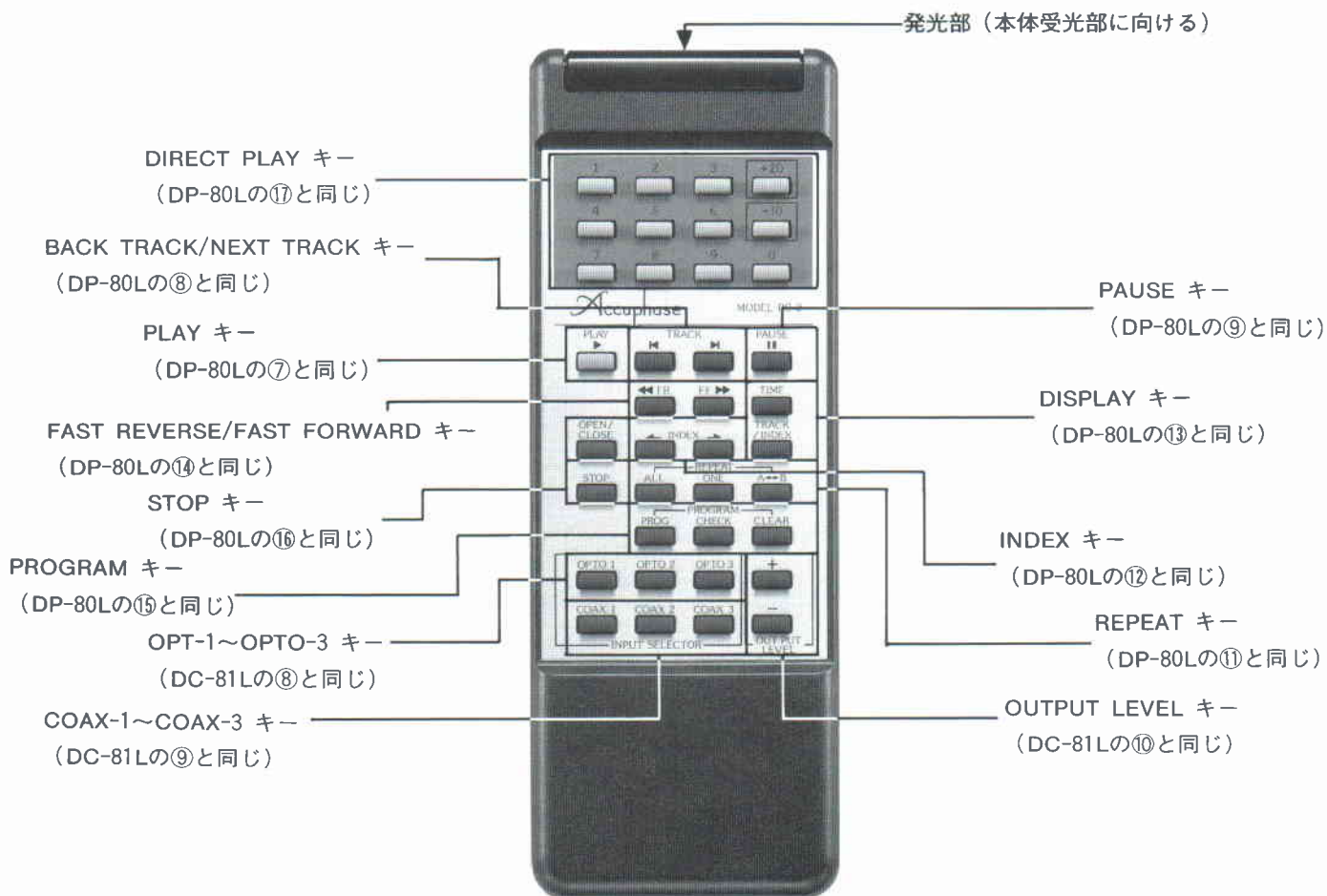
◎プログラムを追加したいときは……トラックサーチ・キーを使って追加したい場所を表示させて、DIRECT PLAYキーで入力します。表示されているトラック番号の次のところに追加入力されます。5秒後に前の状態に復帰します。

# リモート・コントロール

## ■リモート・コマンダーRC-2の取り扱い方■

本機に付属しているリモート・コマンダーRC-2を使うと離れたところからプレーヤーをコントロールすることができます。

電源スイッチのON/OFFはできませんが、その他の操作はDP-80L本体と同じです。

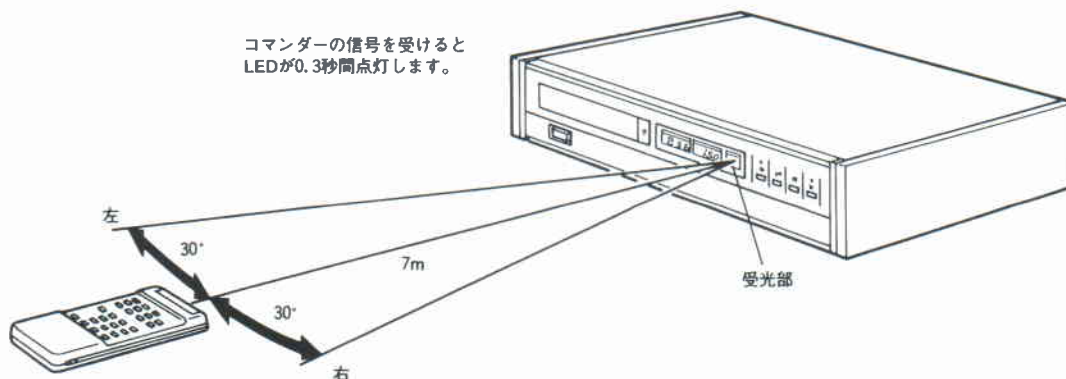


## 使用法

リモート・コマンダーの発光部をDP-80L本体の⑥REMOTEセンサーに向けて、図の範囲でお使いください。

◆落としたり、内部に液体をこぼしたりしないようにしてください。

◆直射日光の当たる所や暖房器具のそばなど、温度や湿度の高い場所に置かないようにしてください。



## 電池について

### ◆電池の交換時期

電池は普通に使って約8ヶ月はもちますが、操作距離が短くなってきたら交換時期です。完全に消耗すると、キーを押してもDP-80Lのコントロールができなくなります。

**使用する乾電池は、SUM-3（単3）型を2個、両方とも新しい電池に交換してください。**

### ◆電池についてのご注意

乾電池も正しく使わないと、液漏れや破裂などの危険があります。次の点に十分ご注意ください。

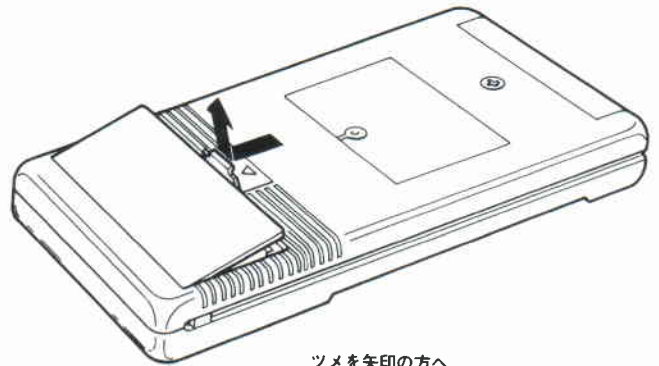
▲電池の向きはコマンドーのケースに示されている通り、⊕プラス、⊖マイナスを正しく合わせてください。

▲新しい電池と、1度使用したものを混ぜないようにしてください。

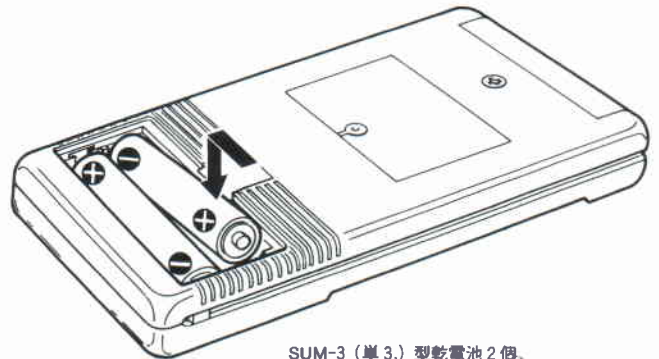
▲同じ形状でも、性能の異なるものがありますから、種類の違う乾電池を混ぜて使用しないようにしてください。

▲長時間にわたりコマンドーを使わないときは、電池を抜いておいてください。

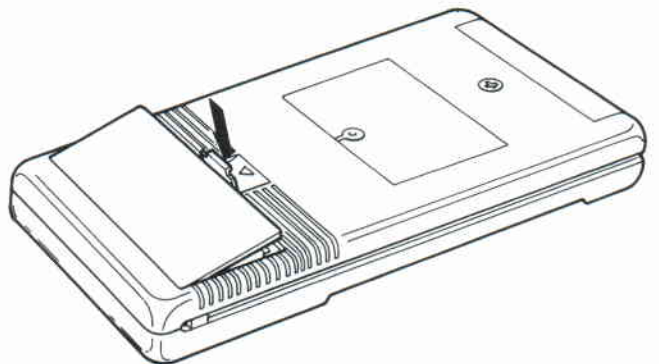
万一、液漏れを起こしたときは、電池ケースについた液をよく拭き取ってから、新しい乾電池を入れてください。



ツメを矢印の方へ  
押して蓋を開ける



SUM-3（単3）型乾電池2個、  
⊕ ⊖ を正しく入れる



カチッと音がするまでしめる



# 保証特性

【保証特性はEIAJ測定法CP-307に準ずる】

形式	CD専用デジタル信号再生器
フォーマット	CD標準フォーマット エラー訂正方式：CIRC チャンネル数：2チャンネル 回転数：500～200rpm(CLV) 演奏速度：1.2m/s～1.4m/s一定
読み取り方式	非接触光学読み取り（半導体レーザー使用）
レーザー	GaAlAs（ダブルヘテロ・ダイオード）
デジタル出力フォーマット・レベル（EIAに準ずる）	フォーマット：DIGITAL AUDIO INTERFACE OPTICAL：光出力：-21～-15dBm(EIAJ) 発光波長：660nm COAXIAL：0.5V <sub>P-P</sub> 75Ω
使用半導体	6Tr 2IC 20Di
電源・消費電力	100V 117V 220V 240V 50/60Hz 15W
寸法・重量	幅475mm×高さ135mm（脚含む）×奥行373mm 15.0 kg

## 付属リモート・コマンダーRC-2

リモコン方式：赤外線パルス方式

電源：DC3V・乾電池 SUM-3型（IEC呼称R6）2個

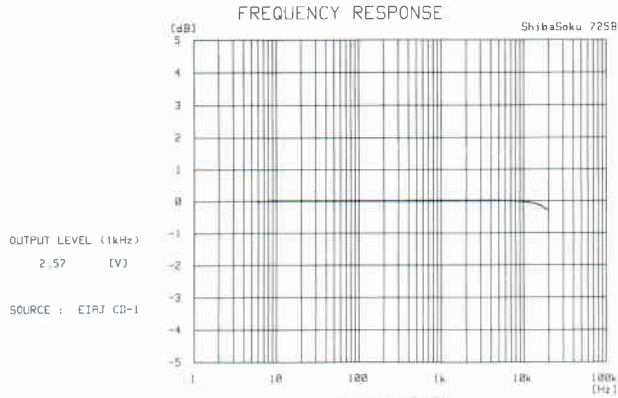
最大外径寸法・重量

：64mm×176mm×18mm

180g（乾電池含む）

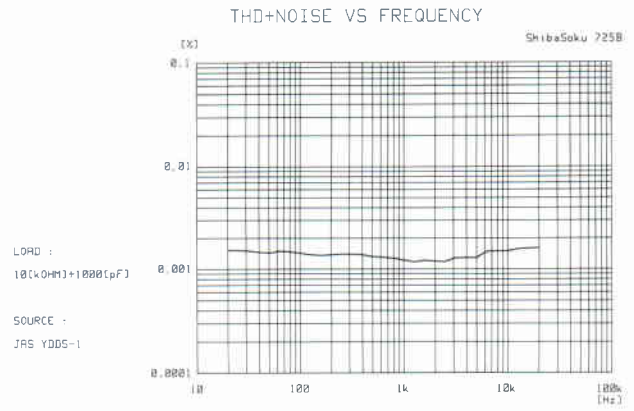
# 特性グラフ

DP80L-DC81L



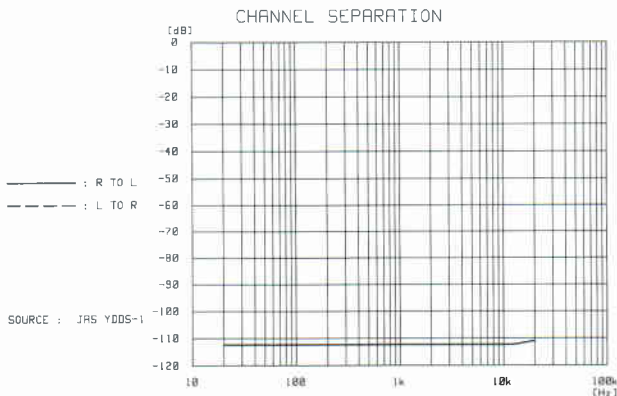
周波数特性

DP80L-DC81L



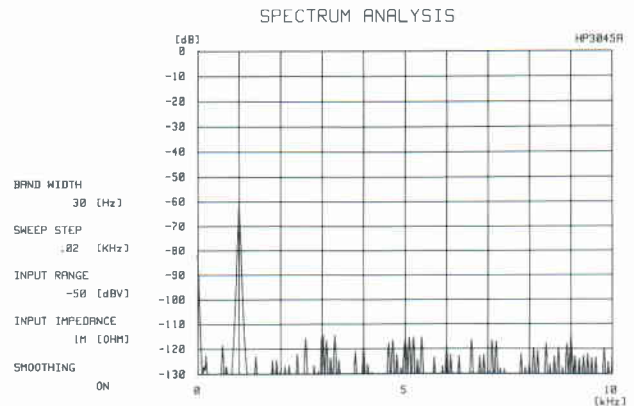
全高調波ひずみ(雑音含む)対周波数特性

DP80L-DC81L



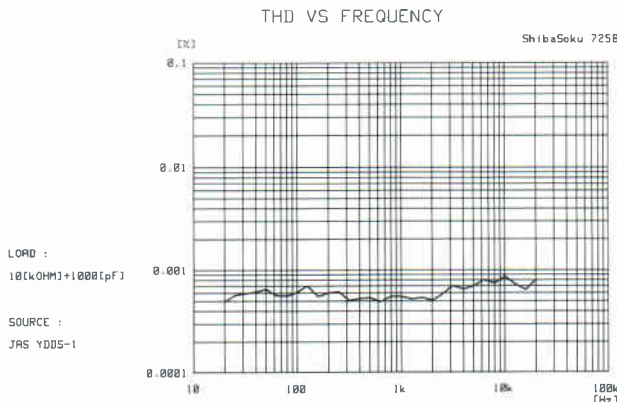
チャンネル・セパレーション特性

DP80L-DC81L



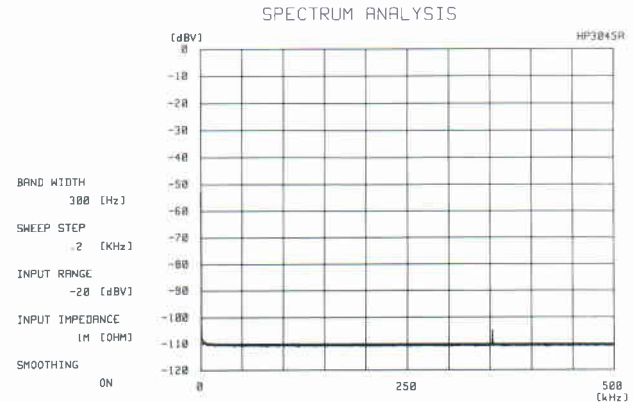
1kHz -60dB 再生時のスペクトラム

DP80L-DC81L



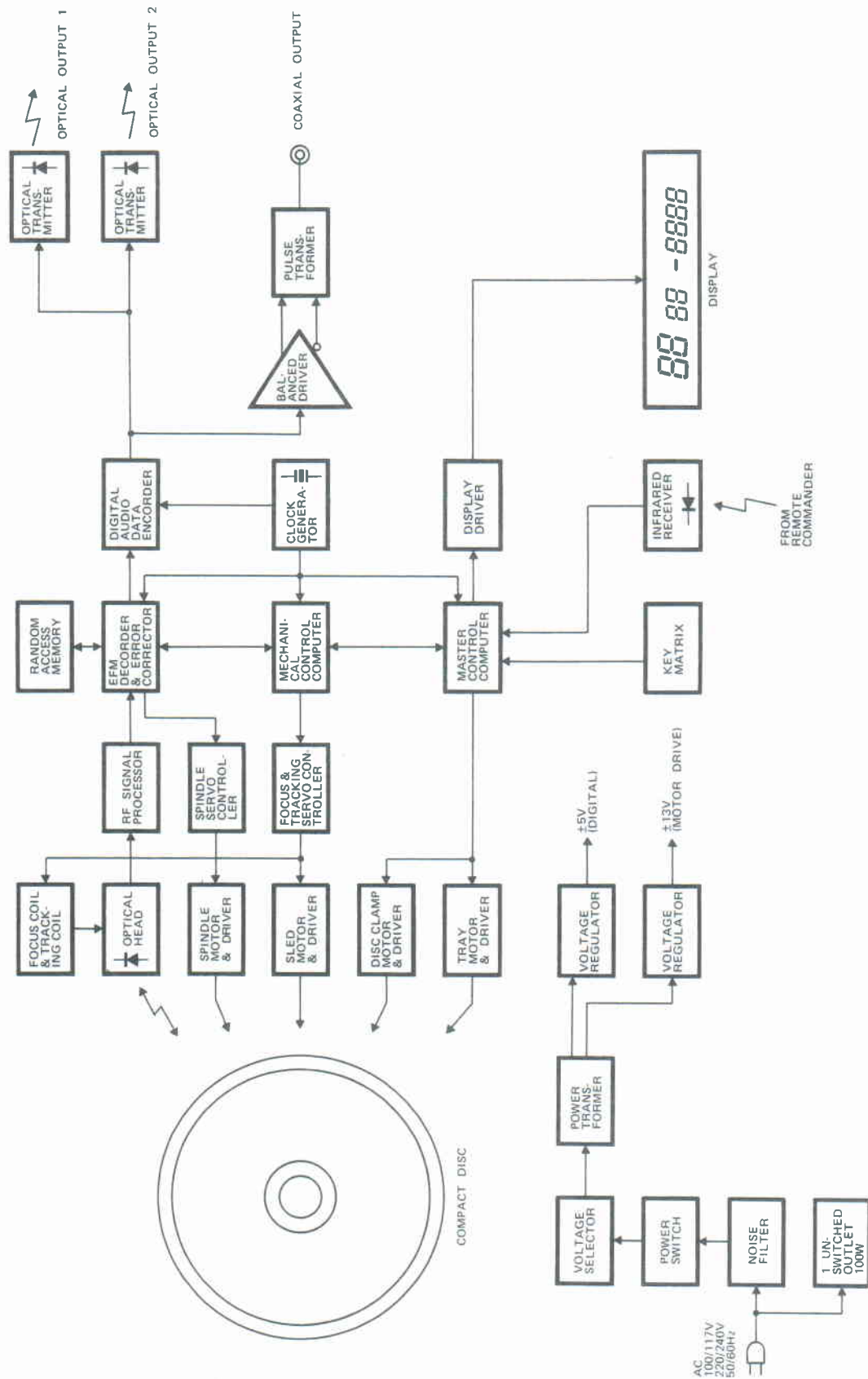
全高調波ひずみ対周波数特性

DP80L-DC81L



無信号再生ノイズ周波数スペクトラム

# ブロック・ダイアグラム



Accuphase

ACCUPHASE LABORATORY INC.

アキュフェーズ株式会社

横浜市緑区新石川2-14-10

〒227 TEL(045)901-2771(代表)